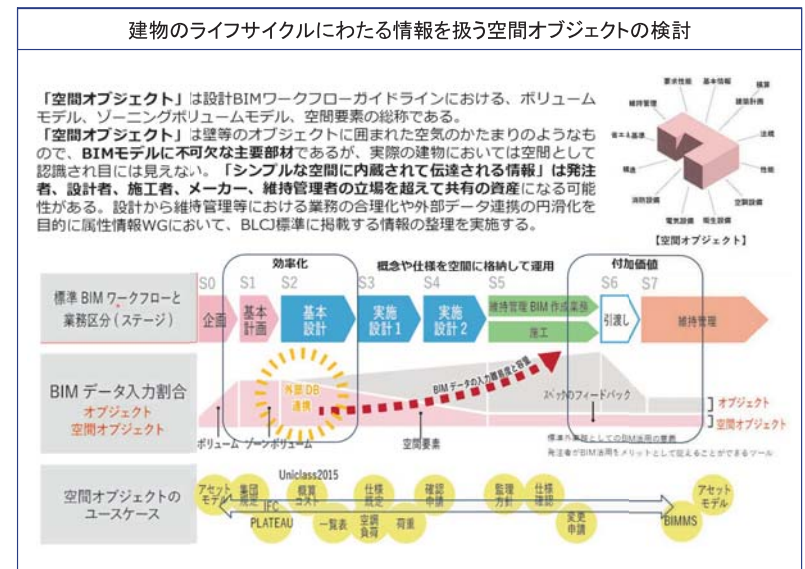
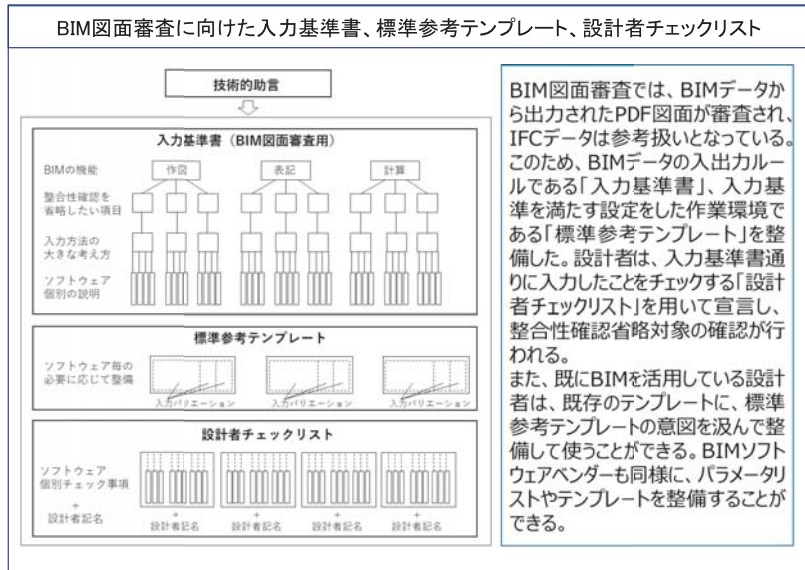
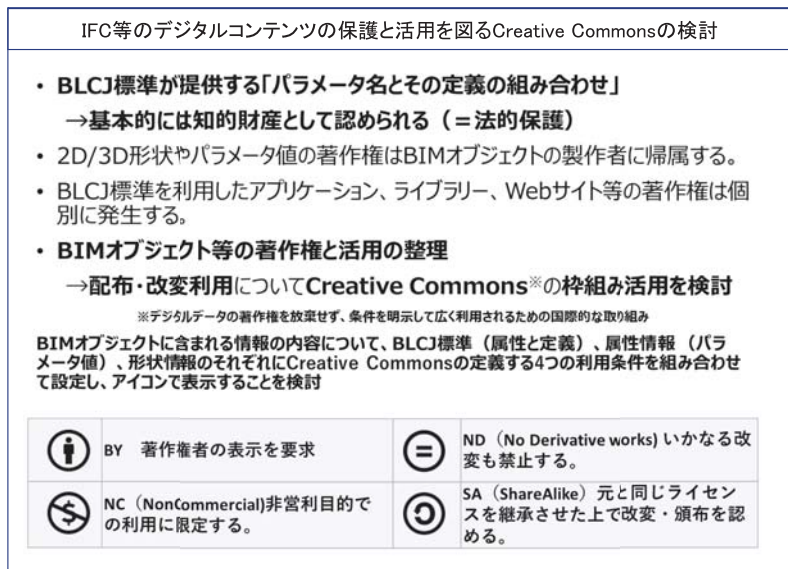
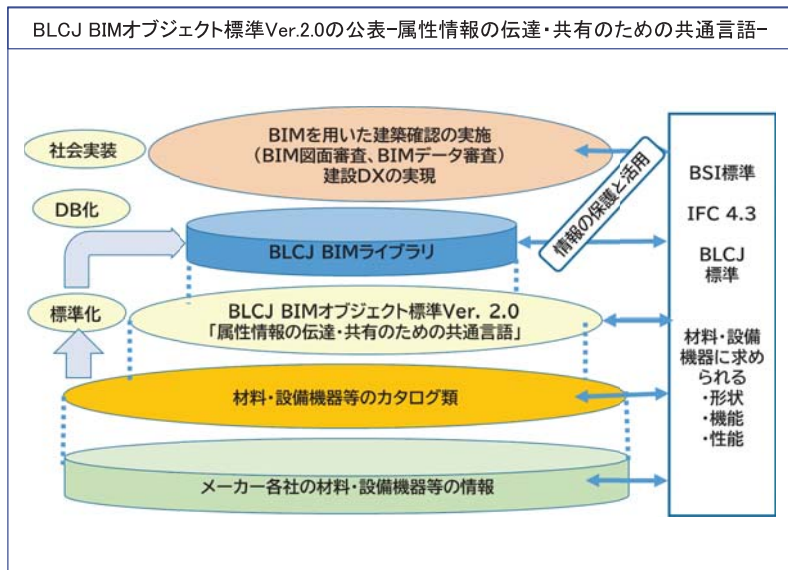




BIMライブラリ技術研究組合理事長

奥田 修一

られてきていますが、2025年度の建築確認申請へのBIMの一部活用が打ち出されたことからさらなる推進体制の強化が図られています。22年度第2次補正予算では建築BIM加速化事業が創設され、BIM活用事業者の拡大が進められています。23年度補正予算においても引き続き加速化事業が実施されており、BLCJをいたしまして昨年度は建築確認や仕様書情報との連携を視野に入れたBIMオブジェクト標準Ver.2.0を策定・公表するとともに、社会実装に向けて試験用ライブラリサイトの試行検証を実施しております。また、22年度補正予算の加速化事業では、設計方法に関する調査の実施主体となり、BIM実務の第一線で活躍するメンバーによるタスクグループを設置して集中的に検討を実施しております。

今年度も引き続きBIMの社会実装に向け、建築実務で活用できるツールの開発・改良にBLCJの総力を結集して取り組む所存ですので、関係の皆さまのご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

社会実装へ実務で使えるツールを開発・改良

2025年度の運用開始へ総力を結集

技術的なステップアップへAPI

今年度は技術研究組合活動の6年度目で、2年間延長した技術研究組合の研究成果を整理・検討・整理する年度です。

前年度には、BLCJ BIMオブジェクト標準Ver.2.0の公表、試験BIMライブラリサイトのデモ版の公表と試行検証を開始し、2025年度の実用開始に向けて準備を行っ

在り方部会長
(東京工業大学名誉教授) 安田 幸一

空間オブジェクトの検討本格化

昨年12月12日に、公開されたBLCJ BIMオブジェクト標準Ver.2.0(標準Ver.2.0)は、属性標準を

最大のトピックは、仕上表や設備の室諸元表。さらには維持管理・運用の基盤となる「空間オブジェクト」検討チームの立ち上げです。昨年度の助走を経て、本年度から本格的に活動を開始します。構造については、免振装置の属性情報項目と構造

建築部会長
(芝浦工業大学教授) 志手 一哉

確認申請の機器オブジェクト拡充

設備部会長
(東京都立大学准教授) 一ノ瀬 雅之

BIMMSの部材DB、COBieと整合

設備部会では、昨年度「BLCJオブジェクト標準Ver.2.0」の公表を行いました。また、建築確認BIM図面や仕様書情報との連携を見据え、設計業務や確認申請に必要な機器オブジェクトの拡充追加をし、建築BIM加速化事業の一環として、設備BIMソフト5社による確認申請用サンプル建物での再現性確認と利活用検証を行い、さらに標準仕様書との整合性の確認を行いました。設備分野で対象とする範囲は、延べ面積がおおむね1万平方メートル以下の事務所のS2からS6までの属性情報標準の整理が重要と考

運用部会・連携部会長
(東京都立大学客員教授) 山本 康友

図面審査用3点セットの完成目指す

補正タスクグループ(TG)では、昨年度はBIMを用いた設計者の確認申請(BIM図面審査段階)を実現するために必要な整備を設計者の視点から検討を進め、確認申請時に利用する『入力基準書』『標準参考テンプレート』『設計者チェックリスト』の3点セット(案)を、設計団体とも協働しながら作成しました。できるだけ具体的検討にすべく、普段からBIMを実務で使用しているメンバーが実際に小規模建物のBIMデータを作成しながら検討を進めました。建築はRevit、Archicad、GLOBE、Vectorworksの4ソ

R4補正タスクグループリーダー
(工学院大学教授) 岩村 雅人

フトウェア、構造はRevit、設備はRevit MEP等の5ソフトウェアを使いました。検討ソフトの種類を増やして、中規模の設計事務所等の利用も考慮しました。

今年度は、上記の3点セットを完成させることも、国の技術的助言にひも付き取り扱うことができるよう必要な内容を詰めていくことを予定しています。今年度の検討においては、

ライブラリサイトの技術的なステップアップとして、民間ライブラリサイトとメーカーライブラリサイトのポータル的な役割を担うために、API導入の可能性を検討しています。

今年度は、これらの研究成果や協議、果たしてきた社会的な役割を踏まえて、BLCJの今後の在り方を組合員とともに整理していきたいと考えています。

スと役割分担しながら実施しています。

24年度は、意匠は外部データベースとの連携、構造はカタログサイトの検討、空間は属性情報項目の整理、情報活用はBIMオーサリングツールに実装した際の課題の把握を実施する計画です。これらの先に、BIMオブジェクトの整備、属性情報項目や値を扱うアドオンプログラムの検討等、実務で属性情報を活用する環境が整備されていくと期待しています。

え、確認申請と設計段階で必要な属性情報の整理に取り組みました。

今年度は「BLCJオブジェクト標準Ver.2.0」仕様の社会実装に向けて「BIMベンダー/メーカー/ユーザー」各社の意向を踏まえ、社会実装の展開を進める予定です。また、今年度もBLCJ各部会、建築BIM推進会議の関係部会・団体との連携も図り、BIMライブラリの普及と推進を進める予定です。

は、約3万棟の公共建築の保全に用いられている保全マネジメントシステム(BIMMS)の建物基本情報、部材データベース、台帳管理情報等とBIMの属性情報、空間・設備等の管理情報である国際標準(COBie)との整合性を検討した結果、部材データベース等は、BIMの属性情報と対応していることが整理できました。

今年度は、仕様書とBIMの連携、引き渡し情報とBIMの連携について検討を深めていく予定です。

面積算出に関する基準や集団規定について整合性確認に関わる項目の追加、また、大規模な建物や複合用途など実践的な検討を行います。このほか、2025年度のBIM図面審査に向け3点セットの試行的公開と幅広い実務者からの意見徴集、普及に向けた手引書等の作成を行います。国土交通省をはじめ関係団体との調整が必要と考えています。特に設計関係団体の皆さまの協力・ご支援が、BIM図面審査の円滑な実施に向けて肝要なことと考えております。

